書道の教員養成課程における心がまえ

文学部国際言語・文化学科
教授　荒　金　大　琳

学校の現場では「授業が出来ない」の症状を訴えている教師の数が増えています。せっかく叶えた夢であった教職も消え去ってしまいます。「授業が出来ない」の原因を児童や生徒の資質に置き換えている教師の考えは間違っています。その原因は大学時代の過ごし方にあり、上位成績者であったとしても大学時代に精神力を育てていなければ、簡単なことで授業は崩壊してしまいます。原因の大半は大学時代の学習状況にあります。教材研究と同様にどんなに辛いことがあっても耐えられる強靭なる精神を大学で学び、どんな状態にあっても生徒が理解できる教員としての育成を遂げなければなりません。

大学における学生の活動は自由です。しかし、教員免許状の取得となればその自由の中にも制約は生まれます。自由な時間も教員としての活動と学習に使用しなければなりません。単位の積み重ねだけで教員免許状は取得出来ます。しかし、その真価は教壇に立った時に問われます。教職を望む目的は教員になることではなく、教員を続ける中での授業活動や生徒指導の活動に挑む事が出来ることです。勿論、大学の授業の活動では時間は足りません。学習活動と自己研究や教育研究等を授業以外の活動に於いて参加する事を望みます。この事が卒業後の学校現場での授業の構成に携わる際に役立っています。

「盗人も人の心は盗めない。しかし、教師が良い授業をすれば簡単に生徒の心は盗まれている」。この言葉のように高校生が感動する素晴らしい教師は多くいます。素晴らしい教師は別府大学の卒業生の中にも多くいます。そんな教師がこれからも誕生出来るようにと、別府大学の教員養成課程に関わる教職員は学生に対する教職への道に心を燃やしています。その為にも、次の四点は大学時代の学生に学んでほしいのです。

○教員の資質向上につながる基礎基本の習得
○教科の専門知識や技術の習得
○生徒を意欲的に理解する能力を習得し、生徒の意欲を開発する能力の習得
○教育的な言語と表現活動の学習と習得

教員の採用試験が困難になり、常勤講師・非常勤として一年目から務める現状に於いて、別府大学では初任者研修の内容を含む全面的な学習が必要になり、在学中に教師として活動できるレベルに達する事が出来るように努めています。

そのために必要となる教師の心がまえについて記します。

1．指導案から「～させる」の命令的な語句の排除を望みます

これまでの指導案の記述

時　間	学　習　内　容	指導上の留意点	配　時

支持する指導案の記述

時　間	学生(児童･生徒)の活動		教　師　の　活　動			配　時
	学習内容	学習活動	指導内容	教師の指導とその支援	評価の観点	

指導案での「教師の指導とその支援」を充実するためには、指導案の言語表現で「～させる」の命令的用語の使用を避けなければなりません。指導案は教師が生徒に最大限の理解を求めるための工夫を凝らす場であります。指導案の内容が良くても、この命令的な語句の使用は教師が志す生徒を育てる授業の指針からは離れてしまいます。この命令的な語句を使用しないだけで、難しい課題に於いても「ぬくもり」のある指導案へと導かれ、理解への進展に向うから不思議なのです。

解説と実技指導の両面に時間をかければかけるだけ書道の授業は充実します。授業時間が定まっている限り、説明が多くなれば実技の指導は不足し、実技の指導が多くなれば説明の時間は当然無くなっていきます。実技の時間は出来るだけ多く保持しなければなりません。そこで必要になるのが、指導における教師の支援としての数々の教育方法です。生徒に向けた細かい指導の中に多くの支援活動が必要になります。「～させる」の用語の排除は、実技の指導の中でも必要になる教師の支援は充実し、生徒の心も自然と和み、授業が暖かい方に向かいます。説明の量を最小限に抑えたとしても、生徒の満足度が増し理解は深まっていきます。指導案の中でのぬくもりのある語句の記入が定着する事を望みます。

次は指導案の項目名の問題です。「学習内容」を「児童・生徒の活動」に改め、「学習内容・学習活動」に分配する事と、「指導上の留意点」を「教師の活動」に改め、「指導内容・教師の指導とその支援・評価の観点」の三つに分配して生徒の指導に当たってほしいのです。ここではそれぞれの語句の使い方を記します。

学習内容

生徒が学ぶ学習の内容を過去･現在･未来の中で、今何を、何の為に学ぶかを示し、時間と共に次々に進んでいく学習の内容を端的に表現する事が望まれます。

学習活動

学習の内容を受けて、生徒がどのように活動するかの推測を行い示す場所でもあります。両者とも生徒の立場に立って記すのですが、次の「教師の活動」での三つに関連されます。三者とも、教師が生徒に対してきめ細やかな授業実施の為の指導案になることを望みます。

指導内容

生徒の学習内容と関連するのですが、全く同じものになっては分配した意味を見失ってしまいます。あくまでも教師の活動の中から生まれた指導内容を記すもので、その内容は生徒が見て理解出来る表

記に努め、難しい事を簡単な言葉で記して下さい。その内容の項目が指導の一つ一つに反映されることでしょう。

教師の指導とその支援

項目別に示された指導の内容を具体的に手順として記すことが求められます。それを受けてその指導内容と授業を充実する為に必要な支援の材料を用意しなければなりません。その上に教師の指導内容とその内容における支援の使い方や指導方法も細く記します。その内容には具体的に記し、その一つ一つに目標を定めることが必要になります。

評価の観点

生徒の理解度に対して評価を行う観点として「興味・関心・意欲・思考・判断・表現・工夫・知識・理解」そして「驚き」の項目を用いると良いでしょう。評価の為に必要になります。授業の項目ごとに実施チェックを加えます。その目的は作成された指導案が授業中の生徒の状況や生徒の反応や理解に対して周知する事にあります。「～させる」の語句とは同じベースに存在不可能なものと言えます。又、授業に驚きがなければ、生徒はついてきません。「驚き」は各項目を繋ぎ合わせる授業における接着剤とでもいえます。作られた指導案の内容は「自己評価表」と、形を変え生徒に配布します。生徒が授業を受講する際に用います。生徒に対する評価が目的ではありません。どこが分かって、どこが分からなかったかの現状を見極め、生徒の理解度の周知に努めます。生徒に配布しますので、教師も堂々と見て進行出来ます。授業は予定通り進行し、整理され、教師は授業に対して楽しくなっていきます。

その結果での評価は授業終了後に実施する生徒による授業評価へと導かれます。故に、授業の内容は指導案で十分に検討しなければなりません。指導案で練られた内容は授業で反映され、生徒の理解へと結び付き、指導は授業目標とかかわり、指導の上にて理解されたことは評価へと関連されます。目標と評価は表裏一体と言えます。指導案に記載していないことを授業の途中で必要と思い説明することはよくあること。しかし、これを評価の対象にしてはいけません。これを評価に加えると、授業の目標そのものに狂いが生じ、次に繋がっていきません。指導内容は直接評価へと結びつくことが必要であり、突然思いついた脱線内容を評価に繋げることは指導案の軽視へとなります。脱線する内容も指導案の作成時点で十分に検討しなければなりません。

2．絶対評価と相対評価の考え方と自己採点自己評価について

評価は授業の総まとめと言えます。評価は相対評価と絶対評価に分かれます。相対評価は理解できたことと出来ないことに関係なく、一番と最下位を生み序列の意識を高めます。絶対評価は個人の成長を重視するために生まれたもので、個人の意欲や個性を育成に適しています。「生徒が自己の目標に到達していれば全員100点でも可」の考え方さえ生まれます。現在の評価は相対評価から絶対評価へと移行しています。しかし、どちらが良いではなく、この二つの考え方を常に用いて授業を組み立てていかなければ生徒の為にならないと思います。

指導には評価が伴い、生徒への評価は教師への評価へと繋がります。授業の改善はそこから始まります。生徒が最初に書いた作品と清書作品を比べ、授業時間内での成果を見つめ、生徒個人の成長と進歩を重点に置いた個人評価は重要になります。自己評価も同様に重要で、客観的に自己を見つめ自己判断力を養うことが出来るからです。しっかりと確立された指導案で授業を行った結果に評価の存

在が明らかになります。そのために、授業終了五分前に自己採点と自己評価を行う事が必要になるのです。教師はその評価を受けて、次の授業に生かすことが出来るのです。生徒の反応が異なれば同じ課題でも指導内容を変えて再び次の指導案作りに向かえばよいのです。

おわりに

以上のことを繰り返し学習を積み重ね、堂々と授業を実施すれば生徒は必ず授業に参加するものです。少しでも不安な姿勢は授業の崩壊へと導かれてしまいます。そのために授業の前に行う教材研究は広い視野で行い、指導案の制作が必要になります。積み重ねられた知識は授業に持ちこんでください。生徒が少しでも疑問に思ったことは、一緒に考え、更に指導へ反映する事が大切です。教育実習での二週間や三週間はその繰り返しの場と思ってよいでしょう。失敗を恐れてはいけません。授業で学ぶ焦点をしっかりと把握すれば教育現場は楽しくなります。努力の後の失敗は良いのです。又、大学に戻って一緒に学習を深めましょう。一つ一つの教材研究と学習の結果に強靭なる精神は育つものです。

今は教育実習に目標を定め、一歩一歩、歩んでいきましょう。まだまだ遅くはありません。学校の教室はあなたを待っています。